

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立敷島中学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部分」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。※R8年度は英語を実施しました。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語の平均正答率は全国を上回っており、一定の定着がみられます。特に「話す・聞く・書く」領域では高い定着があり、日頃の取組の成果がみられます。一方で「読むこと」については文章を正確に読み解くことに課題がみられます。
- ・数学の平均正答率は全国とほぼ同程度です。特に「数と式」「関数」「図形」については知識や理解が定着している傾向がみえます。一方で自分の考えや筋道を文章で説明・記述する問題において課題がみられます。
- ・英語の平均正答率は全国と概ね同程度であり、一定の定着がみられます。特に身近なテーマを英語で書く問題で正答率が高く、力が定着しているといえます。一方で、文章の要旨を的確に捉えることや文法に課題がみられます。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向として、基本的生活習慣が定着していること、「自分にはよいところがある」という自己肯定感が高いこと、将来の夢や目標を持つ生徒が多いことの3点が挙げられ、前向きな姿勢がうかがえます。
- ・課題となる傾向としては、家庭学習の時間が全国より短いこと、スマートフォンやゲームの長時間利用の割合が高いこと、自ら計画的に学習を振り返る習慣がやや不足していることの3点が見られます。
- ・学力調査で見られた「深く読み解き、論理的に記述する力」の課題は、家庭学習時間の短さやスマートフォン等の長時間利用による、じっくりと思考に向き合う時間の不足と関連していると考えられます。
- ・今後は日常の時間の使い方を見直し、家庭でも主体的に机に向かって学習を振り返る習慣を確立していくことが、さらなる学力向上の鍵となります。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・全体的な授業改善として、生徒同士が意見を交わし合う「主体的・対話的で深い学び」を推進し、情報を整理して自らの考えを他者にわかりやすく論理的に表現する機会を各教科で積極的に設けます。
- ・国語の「読むこと」や英語の「要旨把握」の課題に対しては、表面的な意味だけでなく、文章全体の文脈や筆者の意図を読み解き、要約したり共有し合ったりする活動を授業内で繰り返し行います。
- ・数学の「関数・記述問題」や英語の「文法の正確さ」の課題には、自分の考えを根拠に基づき記述し、相互に見直す習慣を定着させます。
- ・教科学習に加え、部活動や日々の生徒指導などの諸活動を連携させ、集団の中での役割や協力する経験を大切にします。社会性や粘り強さを育むことで、学習や生活へのモチベーション向上へとつなげます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・学校での協働的な学びを支えるため、ご家庭でも「今日はどんなことを学んだの?」といった声かけを通して、お子様が自分の言葉で考えを伝えるコミュニケーションの機会を持ていただければ幸いです。
- ・学力向上と課題克服のためには、家庭学習の定着が不可欠です。まずは短い時間からでも毎日決まった時間に机に向かい、その日の授業の振り返りを行う習慣づくりへのサポートをお願いいたします。
- ・課題となっているスマートフォン等の利用については、長時間の使用が学習や睡眠などの生活リズムに影響を及ぼさないよう、ご家庭でよく話し合い、実情に合った適切なルール作りと見守りをお願いいたします。
- ・学校生活や部活動での頑張り、将来の目標などについて家庭内で語り合うことで、お子様の自己肯定感や学習へのモチベーションがさらに高まります。温かいご支援を引き続きよろしくお願い申し上げます。